

## 平成18年度農林水産情報交流ネットワーク事業 地方調査 食品安全GAPに関する意識・意向調査結果

この調査は、食品安全GAPに関連する取り組みについてどのような意識及び意向をもっているかを把握し、今後、地域における食品安全GAPの取組の推進及び啓発活動を効果的に行うための基礎資料を整備することを目的として、平成19年1月下旬に、関東農政局管内の農林水産情報交流ネットワーク事業の農業者モニター642名を対象に実施し、540名の回答を得た結果である。

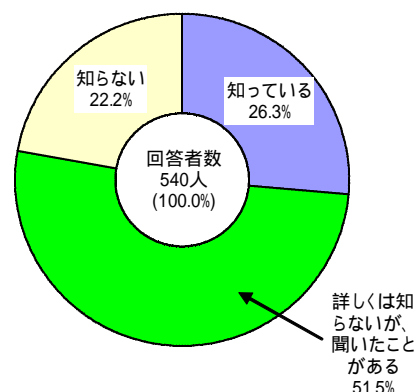
### 調査結果の概要

#### 1 食品安全GAPの認知度

- 「知っている」と回答した者は約3割 -

図1 食品安全GAPの認知度

食品安全GAPの考え方や取組内容について「知っている」と回答した者は26.3%、「詳しくは知らないが、聞いたことがある」と回答した者は51.5%、「知らない」と回答した者は、22.2%となっている。

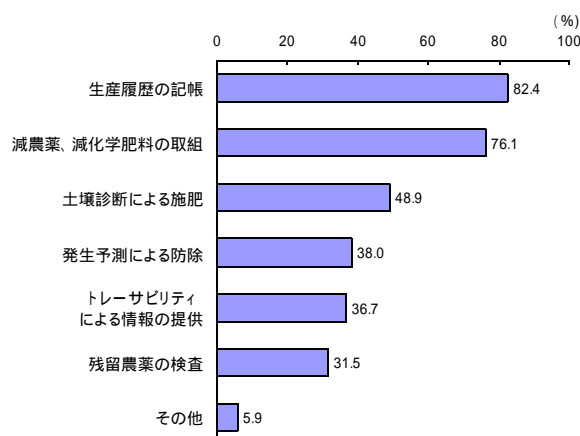


#### 2 安全な農産物を生産するための取組内容

- 取組が多いのは「生産履歴の記帳」で約8割 -

安全な農産物を生産するための食品安全GAPにつながる取組内容は、「生産履歴の記帳」が82.4%と最も高く、次いで、「減農薬、減化学肥料の取組」が76.1%、「土壌診断による施肥」が48.9%となっている。

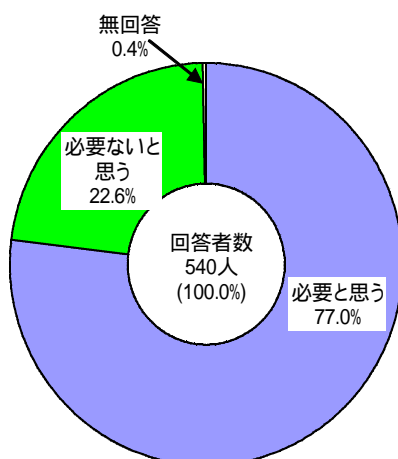
図2 安全な農産物を生産するための取組内容(複数回答)



3 食品安全GAPの取組内容の充実・新たな取組の必要性  
 - 「必要と思う」と回答は約8割 -

食品安全GAPの取組内容の充実及び新たな取組について、「必要と思う」が77.0%、「必要ないと思う」が22.6%となっている。

図3 食品安全GAPの取組内容の充実・新たな取り組みの必要性



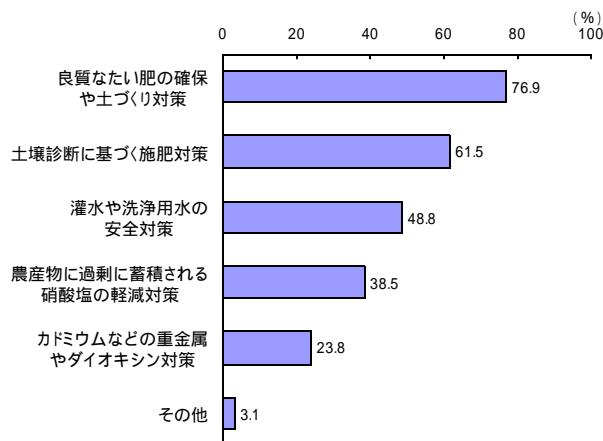
4 3において「必要と思う」と回答した者が考えている食品安全GAPの取組内容に関する課題

(1) 水、土壌、肥料について

- 「良質なたい肥の確保や土づくり対策」を課題とするものが約8割 -

水、土壌、肥料に関する食品安全GAPの取組内容の課題は、「良質なたい肥の確保や土づくり対策」が76.9%と最も高く、次いで、「土壌診断に基づく施肥対策」が61.5%、「灌水や洗浄用水の安全対策」が48.8%となっている。

図4 - 1 食品安全GAPの取組内容の課題(複数回答)  
 (水、土壌、肥料)

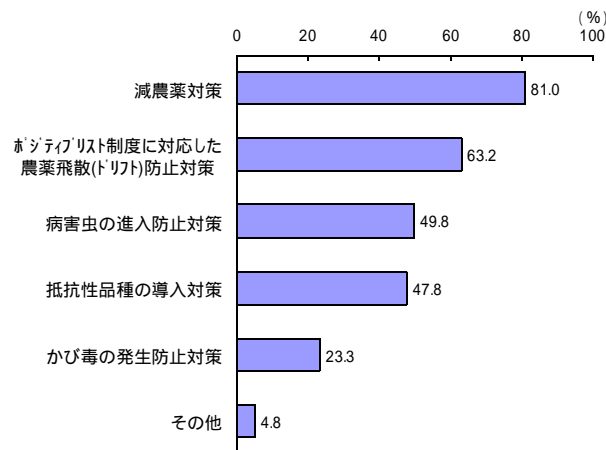


( 2 ) 防除、農薬について

- 「減農薬対策」を課題とするものが約 8 割 -

防除・農薬に関する食品安全 G A P の取組内容の課題は、「減農薬対策」が81.0 %と最も高く、次いで、「ポジティブリスト制度に対応した農薬飛散(ドリフト)防止対策」が63.2%、「病害虫の進入防止対策」が49.8%となっている。

図 4 - 2 食品安全 G A P の取組内容の課題 (複数回答)  
(防除・農薬)

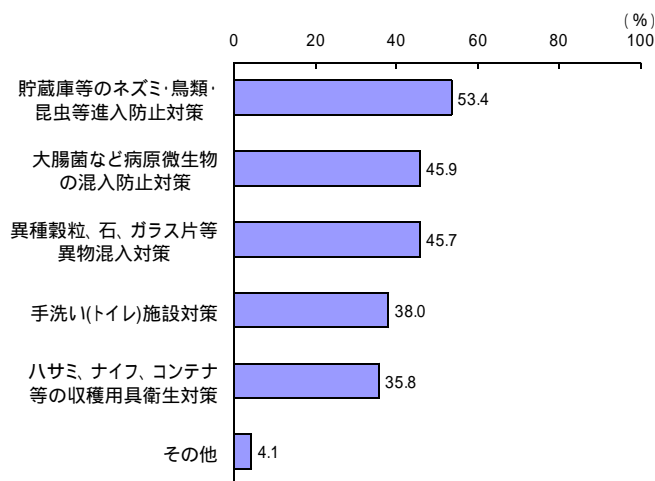


( 3 ) 衛生管理対策について

- 「貯蔵庫等のネズミ・鳥類・昆虫等進入防止対策」を課題とするものが約 5 割 -

衛生管理対策に関する食品安全 G A P の取組内容の課題は、「貯蔵庫等のネズミ・鳥類・昆虫等進入防止対策」が53.4%と最も高く、次いで、「大腸菌など病原微生物の混入防止対策」が45.9%、「異種穀粒、石、ガラス片等異物混入対策」が45.7%となっている。

図 4 - 3 食品安全 G A P の取組内容の課題 (複数回答)  
(衛生管理対策)

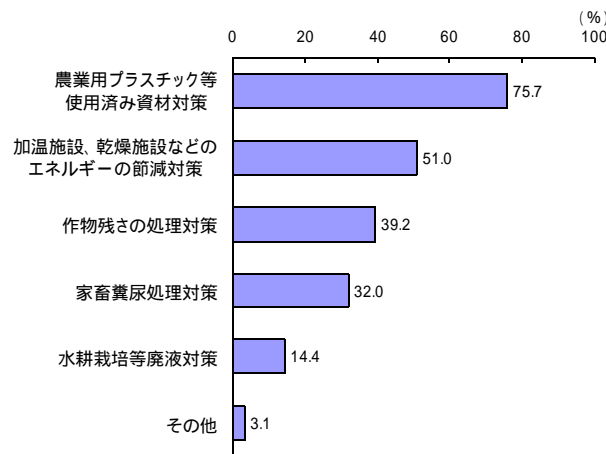


(4) 環境対策について

- 「農業用プラスチック等使用済み資材対策」を課題とするものが約8割 -

環境対策に関する食品安全GAPの取組内容の課題は、「農業用プラスチック等使用済み資材対策」が75.7%と最も高く、次いで、「加温施設、乾燥施設などのエネルギーの節減対策」が51.0%、「作物残さの処理対策」が39.2%となっている。

図4-4 食品安全GAPの取組内容の課題(複数回答)  
(環境対策)

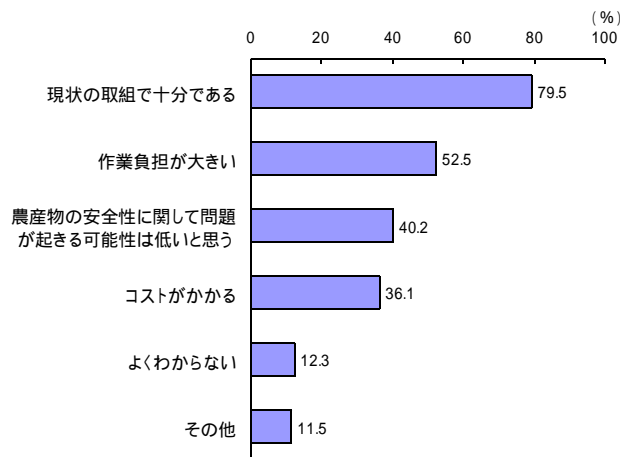


5 3において「必要ないと思う」と回答した者が食品安全GAPの取組内容の充実等が必要ないと思う理由

- 「現状の取組で十分である」が約8割 -

食品安全GAPの取組内容の充実等が必要ないと思う理由は、「現状の取組で十分である」が79.5%と最も高く、次いで、「作業負担が大きい」が52.5%、「農産物の安全性に関して問題が起きる可能性は低いと思う」が40.2%となっている。

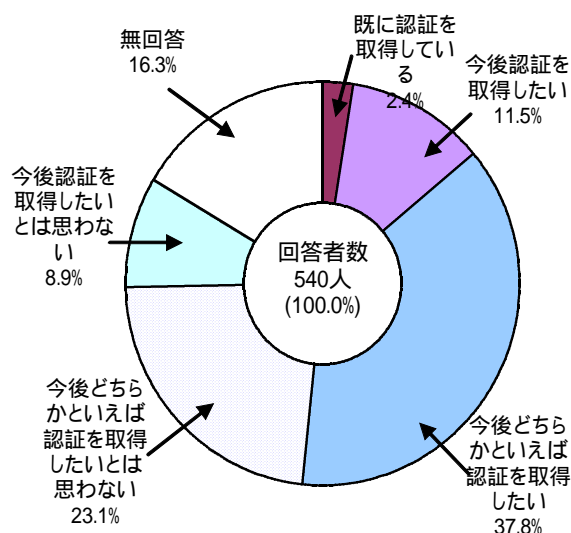
図5 食品安全GAPの取組内容の充実が必要でないと思う理由  
(複数回答)



6 NPO法人日本GAP協会のJGAP認証取得の意向  
 - 「取り組みたい」との意向は約5割 -

JGAP認証の取得意向は、「既に認証を取得している」が2.4%、「今後認証を取得したい」が11.5%、「今後どちらかといえば認証を取得したい」が37.8%と、今後、全体の49.3%が認証取得に取り組みたい意向を示している。

図6 NPO法人日本GAP協会のJGAP認証の取得意向

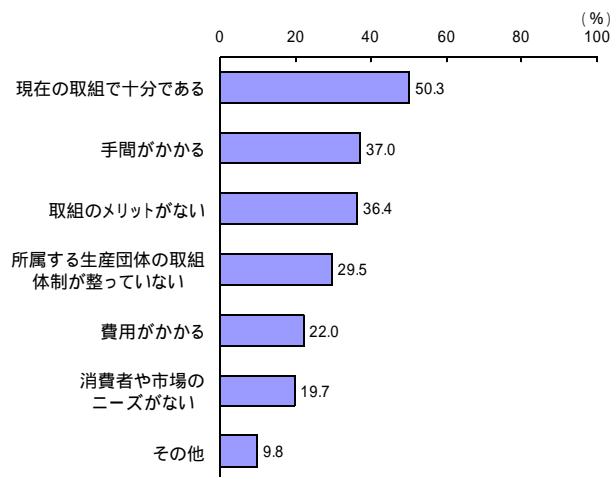


7 6において「認証を取得したいとは思わない」と回答した者がJGAP認証を取得したいと思わない理由

- 「現在の取組で十分である」が約5割 -

JGAP認証を取得したいと思わない理由は、「現在の取組で十分である」が50.3%と最も高く、次いで、「手間がかかる」が37.0%、「取組のメリットがない」が36.4%となっている。

図7 JGAP認証を取得したいと思わない理由(複数回答)

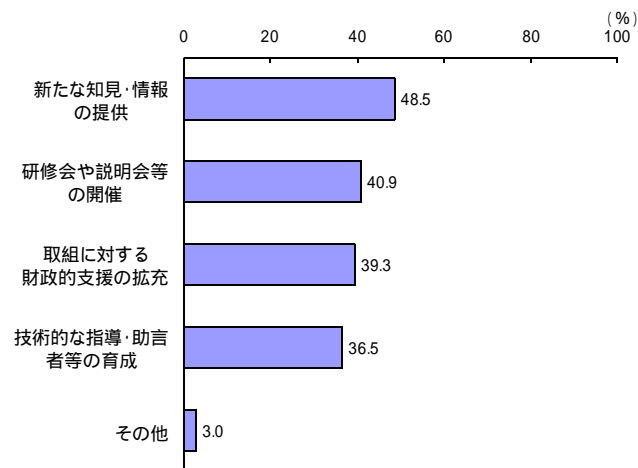


## 8 食品安全GAPを進めるための行政の支援策

- 「新たな知見・情報の提供」の支援を求めるものが約5割 -

食品安全GAPを進めるための行政からの支援を求める内容は、「新たな知見・情報の提供」が48.5%と最も高く、次いで、「研修会や説明会等の開催」が40.9%、「取組に対する財政的支援の拡充」が39.3%となっている。

図8 食品安全GAPを進めるための行政の支援策(複数回答)



## 【アンケート結果表】

## 1 食品安全GAPの認知度

単位：%

回答者数	計	知っている	詳しくは知らないが、聞いたことがある	知らない	無回答
人					
540	100.0	26.3	51.5	22.2	-

## 2 安全な農産物を生産するための取組内容(複数回答)

単位：%

回答者数	計	生産履歴の記帳	減農薬、減化学肥料の取組	残留農薬の検査	発生予測による防除	土壌診断による施肥	トレーサビリティによる情報の提供	その他	無回答
人									
540	100.0	82.4	76.1	31.5	38.0	48.9	36.7	5.9	0.6

## 3 食品安全GAPの取組内容の充実・新たな取り組みの必要性

単位：%

回答者数	計	必要と思う	必要ないと思う	無回答
人				
540	100.0	77.0	22.6	0.4

## 4 3において「必要と思う」と回答した者の食品安全GAPの取組内容の課題(複数回答)

### (1) 水、土壌、肥料について

単位：%

回答者数	計	灌水や洗浄水の安全対策	良質なたい肥の確保や土づくり対策	土壌診断に基づく施肥対策	カドミウムなどの重金属やダイオキシン対策	農産物に過剰に蓄積される硝酸塩の軽減対策	その他	無回答
人								
416	100.0	48.8	76.9	61.5	23.8	38.5	3.1	0.7

### (2) 防除・農薬について

単位：%

回答者数	計	減農薬対策	ポジティブリスト制度に対応した農薬飛散防止対策	抵抗性品種の導入対策	病害虫の進入防止対策	かび毒の発生予防対策	その他	無回答
人								
416	100.0	81.0	63.2	47.8	49.8	23.3	4.8	0.5

### (3) 衛生管理対策について

単位：%

回答者数	計	異種穀粒、石、ガラス片等異物混入対策	大腸菌など病原微生物の混入防止対策	手洗い(トイレ)施設対策	ハシ、ナイフ、コップ等の収穫用具衛生対策	貯蔵庫等のネズミ・鳥類・昆虫等進入防止対策	その他	無回答
人								
416	100.0	45.7	45.9	38.0	35.8	53.4	4.1	2.4

(4) 環境対策について

単位：%

回答者数	計	加温施設、乾燥施設などのエネルギーの節減対策	農業用プラスチック等使用済み資材対策	作物残さの処理対策	水耕栽培等廃液対策	家畜糞尿処理対策	その他	無回答
人								
416	100.0	51.0	75.7	39.2	14.4	32.0	3.1	2.4

5 3において「必要ないと思う」と回答した者が食品安全GAPの取組内容の充実等が必要ないと思う理由(複数回答)

単位：%

回答者数	計	現状の取組で十分である	作業負担が大きい	コストがかかる	農産物の安全性に関して問題が起きる可能性は低いと思う	よくわからない	その他	無回答
人								
122	100.0	79.5	52.5	36.1	40.2	12.3	11.5	1.6

6 NPO法人日本GAP協会のJGAP認証取得の意向

単位：%

回答者数	計	既に認証を取得している	今後認証を取得したい	今後どちらかといえば認証を取得したい	今後どちらかといえば認証を取得したいとは思わない	今後認証を取得したいとは思わない	無回答
人							
540	100.0	2.4	11.5	37.8	23.1	8.9	16.3

7 6において「認証を取得したいとは思わない」と回答した者がJGAP認証を取得したいとは思わない理由(複数回答)

単位：%

回答者数	計	取組のメリットがない	現在の取組で十分である	費用がかかる	手間がかかる	所属する生産団体の取組体制が整っていない	消費者や市場のニーズがない	その他	無回答
人									
173	100.0	36.4	50.3	22.0	37.0	29.5	19.7	9.8	1.7

8 食品安全GAPを進めるための行政の支援策(複数回答)

単位：%

回答者数	計	新たな知見・情報の提供	取組に対する財政的支援の拡充	研修会や説明会等の開催	技術的な指導・助言者の育成	その他	無回答
人							
540	100.0	48.5	39.3	40.9	36.5	3.0	8.3

## 【利用上の注意】

### 1 調査の内容

本調査は、農業者モニターに対して、食品安全GAPに関連する取り組みについてどのような意識及び意向をもっているかを把握し、今後、地域における食品安全GAPの取組の推進及び啓発活動を効果的に行うための基礎資料を整備することを目的として実施したものである。

### 2 調査対象

「農林水産情報交流ネットワーク事業」(生産者(農業者、林業者、漁業者)、流通加工業者及び消費者の意見・意向等を迅速に把握して農林推進行政に反映させることなどを目的とした事業)において、関東農政局管内(1都9県)に配置している情報交流モニター等のうち、農業者モニターを対象とした。

### 3 実施時期

平成19年1月中旬～1月下旬

### 4 調査方法

関東農政局及び農政事務所からの往復郵送調査により実施した。

### 5 調査票の回収率

	調査対象者数	回答者数	回収率
農業者モニター	人 642	人 540	% 84.1

### 6 用語の説明等

#### (1) 食品安全のためのGAP(食品安全GAP)とは

食品安全GAPとは、「農作業ごとに、安全な農産物を生産するための管理のポイントを整理し、とりまとめたもの」のことです。

食品安全GAPをつくり、農作業の実施状況を記録していく取組が世界各地で進められています。

#### (2) 食品安全GAPの取組はなぜ必要か

農業の現場には、病原微生物や有害な物質など、農産物の安全性に悪い影響を及ぼすさまざまな要因(危険要因)があります。これらの要因は、気象や土壌などの条件によって大きく異なります。

このため、消費者が求める安全な農産物を生産するためには、産地ごとに食品安全GAPを作り、これに基づいた肥培管理を実施することが必要です。

#### 連絡先

関東農政局総務部情報推進課  
(担当)北澤、松村  
電話 048-740-0059

この資料は、関東農政局ホームページ【<http://www.kanto.maff.go.jp/>】の「地域の情報 > アンケート調査及び意向調査結果」でご覧いただけます。